

# ボゴタ日本人学校における国際理解教育の実践

前在コロンビア日本国大使館附属日本人学校 教諭

北海道中川郡美深町立美深小学校 教頭 阿部 光宏

キーワード：道徳教育、運動会、修学旅行、現地校交流、補習授業校

## 1. はじめに

縁あって在外教育施設へ派遣していただくこととなり、平成25年4月から平成28年3月まで、在コロンビア日本国大使館附属日本人学校（ボゴタ日本人学校）での指導に当たった。コロンビアでの3年間は私にとって、あらゆる意味で新鮮であると同時に大変貴重な体験となった。その概略について紹介する。

コロンビア共和国は南米大陸の北西部に位置し、北はカリブ海、西は太平洋に面し、パナマ、ベネズエラ、ブラジル、エクアドル、ペルーと国境を接している。かつては麻薬組織と政府の全面戦争、反政府ゲリラによる誘拐事件や爆破事件などが発生していたが、現在は「現実を魔法に変える国」をキャッチフレーズに治安の改善や観光客の誘致に積極的に取り組んでいる。首都ボゴタは、人口約800万人の南米大陸5番目の大都市である。標高2650mに位置するため、年間の平均気温が15℃前後と常春の気候で過ごしやすい。トランスミレニオと呼ばれる連結バスが専用レーンを縦横に走るが、人口の集中による交通渋滞が日常化しているのが課題である。

コロンビアの教育制度は、5年の初等教育（小学校）と、4年の前期中等教育（中学校）、2年の後期中等教育（高校）、5年を平均とする高等教育（大学）から成る。義務教育は初等教育と前期中等教育の計9年間であり、新学期は1月から始まる。公立学校の多くは、午前と午後の2部制であり、児童生徒も教師も入れ替わる。「南米のアテネ」と呼ばれるボゴタには大学も多く、教育に対する関心は高い。授業料は無償であるが、教科書は基本的に有料であり、未就学に関する罰則はないため、経済的な理由等により子どもを就学させることができない家庭も少なくない。他に、イギリス系・ドイツ系・アメリカ系のインターナショナルスクールがある。

## 2. ボゴタ日本人学校での教育活動

ボゴタ日本人学校は、社団法人日本文化協会の設置による在コロンビア日本国大使館の附属日本人学校である。ボゴタ市北部の閑静な文教地区に所在し「めざせ地球人」を合い言葉に知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成を目指している。児童生徒数は近年20名前後で推移しているが、少人数である特色を生かし、個に応じたきめ細やかな指導を展開している。以下、私の3年間の実践の一部を紹介する。

### (1) 豊かな心をはぐくむ道徳教育の推進

在任期間を通して小学部5、6年生を担当し、主に小学部の各教科・各領域の指導に取り組んだが、特に力を注いだのは道徳教育の推進である。校内研修の組織を活用した各学期1回（年間3回）の研究授業の実施はもとより、毎回の道徳の時間の充実を心掛けた。大切にしたいことは、豊かな心を育むことと、日本人としての自覚と責任をもちながら世界で生きる国際人としての意識を育てることである。平成28年度の1学期は「自由と自分勝手【1-(3) 自由、自律・責任】」という主題について「うばわれた自由」という資料を基に学習した。2人の登場人物の「自由の捉え方の違い」について考えさせることを通して、自由と自分勝手は違うということに気付かせることができた。2学期は「世界の人々とつながって【4-(8) 国際理解・親善】」という主題について「ペルーは泣いている」という資料を基に考えた。ペルーの女子バレーボールの指導に赴いた加藤明の心情の変化を通して海外で生活する自分たちを見つめ、外国の人々との交流の在り方についての理解を深め、国際交流に努めようとする意欲を高めることができた。3学期は「礼儀は心のあらわれ【2-(1) 礼儀】」という主題について「江戸しぐさ」という資料を通して学習した。江戸時代の人々がお互いに気持ちよく生活するために様々な工夫をしていたことに気付くことを通して、日本人としてどのように生きていくべきなのかについて改めて考える機会に

なったと思う。継続して取り組んだ研究内容は下記のとおりである。担任する3名の児童が道徳の時間について、「自分の思いを自由に表現できるから好き」「友達の考えと自分の考えを比べながら考えられるから好き」「登場人物の心情を考えながら学習するのが好き」と答え、興味・関心をもって学習するようになったことは大きな成果であると考えている。

- ◇「道徳の時間」の充実に向けて取り組んだ主な研究内容
- ① アンケート調査による児童の実態調査、及びその活用
  - ② 資料のよさを生かす提示の工夫
  - ③ 資料の登場人物の心情に寄り添うための「構造的な板書の工夫」
  - ④ 自分の気持ちの変容をみとる道徳ノート、道徳ファイルの活用
  - ⑤ 自ら考え、行動するための「私たちの道徳」の活用
  - ⑥ 道徳の実践意欲を喚起する「道徳コーナー」の設置



【江戸しぐさ「こぶし腰うかせ」の体験】

【「世界の国々とつながって」の実践より（板書計画）】

(2) 保護者・地域との連携

日本人学校の様々な教育活動を推進する上で、保護者・地域と連携することは日本国内以上に大切である。ここでは、コロンビア在住の様々な皆様と共通理解を図りながら実践した活動の一部を紹介する。

① 外交団バザー

毎年5月に、ボゴタ駐在の各国の大使夫人が主催する「外交団バザー」が開催される。世界各国の料理や踊り、民族衣装などの文化が紹介される。ボゴタ日本人学校には毎年、和太鼓演奏の依頼があり新年度に入るとすぐに練習に取り組んでいる。近年は小学部低学年の児童が多く、リズムを取るのが大変だが、「朝の太鼓」の時間や、音楽の時間に上級生が親切に教え、瞬く間に上達する姿が見られた。和太鼓演奏は他にも、運動会や学芸会、きさらぎ祭でも演奏の機会があり、4曲のレパートリーの中から2曲ずつ演奏している。児童生徒の入れ替わりにより編成上の困難もあるが、日本人、コロンビア人共に演奏を楽しみにしており、日本文化の発信の観点からも今後も是非継続していきたい取り組みである。



【外交団バザーでの迫力ある演奏】

② 運動会

毎年6月上旬に「ボゴタ大運動会」を開催している。児童生徒が出場する種目はもとより、保護者、在留邦人、コロンビア人が出場する種目もあり、当日は200人を超える参加者の御協力を得ながら盛大に実施している。私は北海道出身ということもあり、「ボゴタソーラン」の指導を主に担当した。小学部1年生から中学部3年生までの体力差を考慮しながら演舞を構成するのは大変であったが、児童生徒は熱心に練習を重ね、会場いっぱいに響き渡る掛け声と共に踊り、来場者から大きな拍手をいただいた。係活動では、一般参加の皆様にご集合していただき、グラウンド内に誘導する招集係を担当した。スペイン語を用いて多くのコロンビア人に競技内容を説明したり指示を出したりすることは難しかったが、事前に選手登録を行い、名簿を拡大して掲示す

ることによってスムーズに進行することができた。また大使館、木曜会（日系企業会）、JICA（国際協力機構：Japan International Cooperation Agency）、日本人学校教員、PTA 役員の 5 チームによるリレーは白熱し、好レースが展開された。私も毎年出場したが、高地での全力疾走は体力的にはかなり厳しいものであった。しかし、単なる学校行事ではなく、ボゴタ在住の日本人の皆様が楽しみにしている地域行事を企画・運営することができたことは大変貴重な経験であった。

### ③学芸会

毎年10月上旬には、演劇と音楽を中心とした学芸会を実施している。私は3年間を通して企画・立案に携わったが、児童生徒や各担任の個性を生かしながら充実した活動を展開することができた。私自身は、1年次に「そんごくう」、2年次は「オズの魔法使い」、最終年度は「夢から醒めた夢」とミュージカル3部作に取り組んだ。少人数であることから1人2役は当たり前で、途中で着替えをして再登場させるなど子供達には忙しい思いをさせたが、せりふや歌を通して日常の学習の成果を伸び伸びと表現させることができた。ボゴタ日本人学校ならではの特色ある取り組みとしては、現地音楽のフォルクローレが挙げられる。ペルー人の先生が毎週来校し、児童生徒にサンポーニャやケーナといった南米独特の楽器の指導をしてくださっている。当日はオープニングにアンデスならではのフォルクローレの演奏を行い、観客の喝采を受けている。

### ④きさらぎ祭

毎年2月にPTA 主催による「きさらぎ祭」を開催し、当日は500人を超える日本人とコロンビア人が来校する。児童生徒会主催による野菜・古本販売に加え、日本国大使館及び、在コロンビア日本企業による日本食の屋台販売等も実施している。木曜会、大使館、日本人学校派遣教員の配偶者で組織する「さくら会」によるチャリティバザーも好評で、各店舗の売り上げの一部を寄付していただき、PTA 活動の充実に生かしている。私も妻と共に餅つきの実演を行い日本文化の発信に努めた。在留邦人やコロンビア人にも大好評であった。

## (3) コロンビアを理解する取り組み

### ①修学旅行

平成28年7月に、小学部3年生以上の参加によるメデジン市近郊への修学旅行を実施した。治安の関係から航空機を利用すると共に現地警察との連携を図りながら実施した。実施に当たっては、単なる見学に終わることのないようにできるだけ体験活動を取り入れるよう配慮した。今回は、メデジンの「花祭り」に向けてシジュータと呼ばれる花飾りを実際に作る体験を取り入れた。現地サンタエレナ村の花農家の方から花祭りの歴史についての説明をしていただき、その後2チームに分かれて花飾りづくりに取り組んだ。その際には、サンタエレナ村に住むコロンビア人の児童にも会場に来てもらい一緒に活動を行った。その後、日本の折り紙を教えたり、「ふるさと」を合唱したりして交流することができた。本校の児童にとっても現地の子供達と触れ合う貴重な機会となった。その後は、メデジン市独自の公共交通機関メトロ（電車）やメトロカブレ（ケーブルカー）の乗車体験を通してボゴタ市の交通問題について考えることができた。5月の現地への下見から当日まで、大使館や現地旅行代理店をはじめ、様々な方の御協力により安全な修学旅行を実施できたことに感謝している。

### ②コロンビア学習

総合的な学習の時間では、1年間をかけてコロンビアの歴史や文化、経済や社会について調査活動を行っている。食べ物や遊び、観光地や産業など、内容は多岐にわたるが児童生徒は皆、大変意欲的に活動している。

中間発表会を経て2月にはその成果を発信するコロンビア学習発表会を実施する。当日は、大使館やJICA、JETRO（日本貿易振興機構：Japan External Trade Organization）をはじめ各日本企業の方にも来校いただき、専門的な助言を賜りながら学習の充実に生かしている。

### ③現地校交流

本校と隣接する現地校「ラ・サジェ校」の御厚意により年1回の学校訪問をさせていただいている。本校の児童は学年別に分かれラ・サジェ校の各クラスに入り授業を体験する。スペイン語が得意でない児童は戸惑うこともあるが、うまく表現できないときには英語で話したり、身振り手振りで伝えたりしながら、すぐに打ち

解けて楽しそうに交流する姿が見られる。コロンビアならではのサルサ、バンブーコなどのダンスの授業や、キリスト教に関わる内容に驚きながらも瞳を輝かせて取り組む児童の姿が見られた。児童生徒にとっては、現地校の生活を体験できる数少ない機会であるので、相手校の負担に配慮しながらも継続したい活動である。

#### (4) 南米の他諸国との連携

##### ①エクアドルのキト補習授業校との連携

平成25年8月24日に、エクアドルのキト補習授業校へ巡回指導に赴く機会を得た。前年度までは授業を参観し助言をするのみの内容であったが、現地からの要望により私自身も授業をさせていただき、その後研究協議を行うという新たな取り組みを実践した。小学部1年生を対象に国語の説明的文章「くちばし」の授業を行った。在籍する5名のうち、日本語を母国語としない児童が2名という状況の中で、苦慮する面もあったが、黒板に掲示する図やフラッシュカードを工夫することで概ねイメージどおりの授業を展開することができた。何よりもキト補習授業校の先生方の思いや悩みを共有し、協議することができたことは貴重な体験であった。

##### ②中南米校長会における研究授業

平成26年10月15日に、ボゴタ日本人学校を会場に中南米校長会が開催された。南米各国日本人学校の校長先生方に本校の児童生徒の学習の様子を御覧いただく目的で研究授業を公開した。私は、専門教科である算数の授業を公開した。第5学年の「きまりを見つけて」の学習として、「長さの等しいぼうで、正方形を作り、横に並べていくとき、正方形を30個作るきぼうは何本ありますか」という問題を提示した。児童は最初、具体物である棒を実際に並べて考えていたが、次第に「きまりを見つけて考える」ことよさに気づき、下のよう

に表や式に表しながら考えることができた。ボゴタ日本人学校でも、日本国内で実践してきた算数科における問題解決的学習の研究を継続し、児童の思考に沿った課題設定や思考の過程をノートやホワイトボードに表現する方法について取り組んできたが、本実践でその成果を十分に発揮できたと考えている。

①

正方形の数(個)	1	2	3	4	5
ぼうの数(本)	4	7	10		

  

正方形の数(個)	1	2	3	4	5
ぼうの数(本)	4	7	10	13	16

3本ずつ増える。

$4 + 3 + 3 + \dots + 3 = 4 + 3 \times (30 - 1)$   
 $3$ が $(30 - 1)$ 個  $=$   答え

(考え方)  
 正方形1個のときは、ぼうが4本  
 正方形が1個ふえると、ぼうが3本ずつふえる。  
 正方形 $\square$ 個のときの、ぼうの数 $\bigcirc$ 本は、  
 $4 + 3 \times (\square - 1) = \bigcirc$  で表せる。

② 図をかいて、ぼうの並び方を見ると…

$1 + 3 + 3 + \dots + 3 = 1 + 3 \times \square$   
 $3$ が30個  $=$

(考え方)  
 最初の正方形の左側の1本だけ別に考えると、正方形1個につき、ぼうは3本ずつ必要。正方形 $\square$ 個のときの、ぼうの数 $\bigcirc$ 本は、  
 $1 + 3 \times \square = \bigcirc$  で表せる。

### 3. おわりに

コロンビアでの3年間の生活は、私にとって大きな財産となった。治安が劇的に改善されたとはいえども、日本とは全く違う環境での生活は制約も多いものであった。しかし、その中でも児童生徒のために今できることは何かを考え続けた3年間であった。前年度の内容を踏襲するだけでなく、「こうすれば、もっとよくなるボゴタの教育」を常に考えながら改善を心掛け、教育活動に取り組んできたつもりである。校内研修体制の整備、長期休業中における学習サポートの実施、補習授業校のニーズを生かしたきめ細やかな連携、体験を重視した宿泊研修や修学旅行の実施などはその一例である。これらの改善を生かし、ボゴタ日本人学校の教育活動が更に充実することを願っている。今後は管理職として世界に羽ばたく後進の指導に当たりたい。

最後に、在コロンビア日本国大使館や日本文化協会、木曜会の皆様をはじめ、子供達の健やかな成長のために御尽力くださった全ての方々に心より感謝申し上げます。